

漁況情報号外(令和6年度ケガニ漁況情報)

令和6年12月11日
岩手県水産技術センター

本県沿岸漁船漁業の主要対象魚種であるケガニについて、漁期前調査結果等を基に令和6年度の漁況を予測した結果をお知らせします。

1) 期間:	令和6年12月～令和7年4月
2) 水準と動向:	資源水準は中水準、資源動向は増加傾向
3) 漁況・漁期:	県中北部を中心に前年並み～前年を上回る。主漁期は令和7年3月
4) 体サイズ:	前年より中～大型が多い。

〈漁況予測に用いた主要データ〉

1 岩手県海域に生息するケガニの生態

本県海域に分布するケガニは、主に水深150～350mに生息しています。本海域では、6月を中心とする4～9月頃に交尾を行い、雌が卵を約1～2年半保育した後、冬から春にプランクトン状の幼生を放出します。その後は脱皮ごとに成長し、繁殖に参加するまで3～4年(甲長約50mm)、漁獲対象となるまでに約7年(甲長80mm)かかります。なお、北海道と本県のケガニ個体群には遺伝的な差が認められておらず、同じ個体群である可能性が高いため、本県のケガニ資源には、北海道から海流によって流されてきた幼生が着底・成長した個体群も含まれると考えられます。脱皮時期は4～10月頃(6～8月がピーク)で、漁獲が開始される頃には甲羅が堅くなります。

2 岩手県におけるケガニ水揚量の推移

本県では、甲長80mm超(平成29年度までは甲長70mm超)の雄のみが漁獲対象となっており、漁法はカゴと固定式刺網が主体です。令和5年度漁期^{※1}の水揚量は68トン(前年比123%、平均^{※2}比180%)で、漁法別にみると、カゴが35トン(前年比110%、平均比139%)、固定式刺網が33トン(前年比142%、平均比264%)と両漁法で前年を上回りました(図1)。

※1 令和5年12月～令和6年4月まで

※2 平成30～令和4年漁期の5ヶ年平均

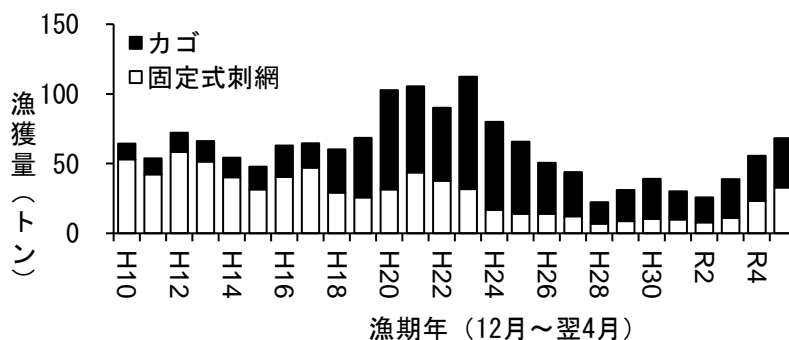


図1 岩手県におけるケガニの年度別・漁法別水揚量の推移

両漁法の延水揚隻数は、平成 21 年度以降段階的に減少しており、近年は概ね横ばい傾向であり、令和 5 年度は 832 隻（前年 1,027 隻）となりました（図 2）。

1 隻 1 日あたりの平均漁獲量（以下、CPUE）はカゴ、固定式刺網ともに平成 23 年度から 29 年度にかけて低下、その後令和 2 年度から徐々に上昇し、令和 5 年度はカゴが 76kg/隻・日（前年比 146%、平均比 187%）、固定式刺網が 90kg/隻・日（前年比 157%、平均比 268%）と、両漁法で大幅に上昇しました。

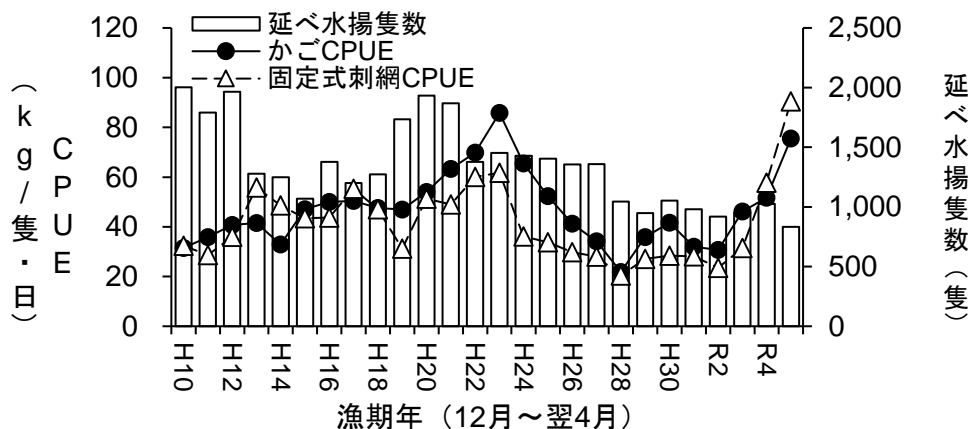


図 2 岩手県における年度別の延水揚隻数と固定式刺網、カゴ CPUE (kg/隻・日)

3 漁期前調査の結果

調査船による漁期前調査結果より、現在のケガニの資源水準は中位水準、動向は増加傾向にあると考えられます。

1) ケガニ漁期前調査(漁業指導調査船「北上丸」による)

釜石沖水深 190m 帯で、カゴを用いた漁期前調査を令和 6 年 11 月 21 日に実施しました。本調査で観測された 180m 深付近の水温は、10.11℃（前年同期差+1.73℃）でした。なお、漁期前調査における 180m 深付近の水温は、漁期中（12～4 月）のカゴ・刺網合計 CPUE と負の相関関係にあり、水温が高いほど漁獲が少なくなる傾向を示しており（図 3）、高水温で推移した場合、ケガニの漁獲は少なくなる可能性が高まります。但し、近年は高水温でも漁獲量が多い場合も見られます。

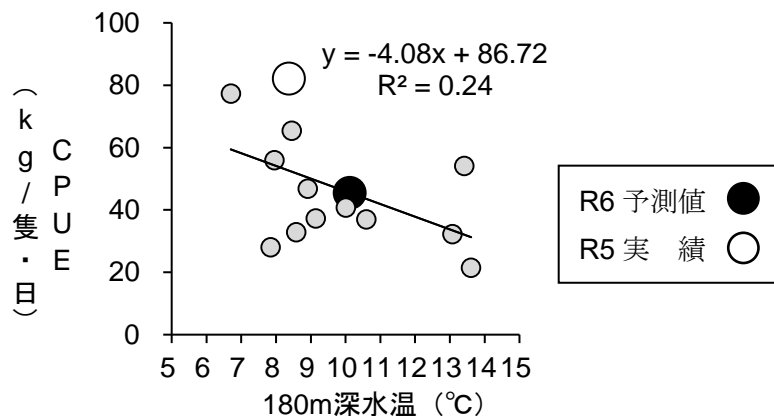


図 3 12～4 月のカゴ・刺網合計 CPUE と漁期前調査の 180m 深水温の関係

R²の値が 1 に近いほど寄与率が高いことを表す。白丸は令和 5 年の実績値、黒丸は令和 6 年の予測値を示す。

1回の漁期前調査で採捕されたケガニは117尾（雄：78尾、雌：39尾）と、前年の60尾（雄：52尾、雌：8尾）の採捕尾数を上回りました（前年の漁期前調査は計2回）。

なお、採捕されたケガニの甲長の範囲は、雄が38～79mmで甲長80mm以下の個体のみであり、雌は40～72mmでした（図4）。

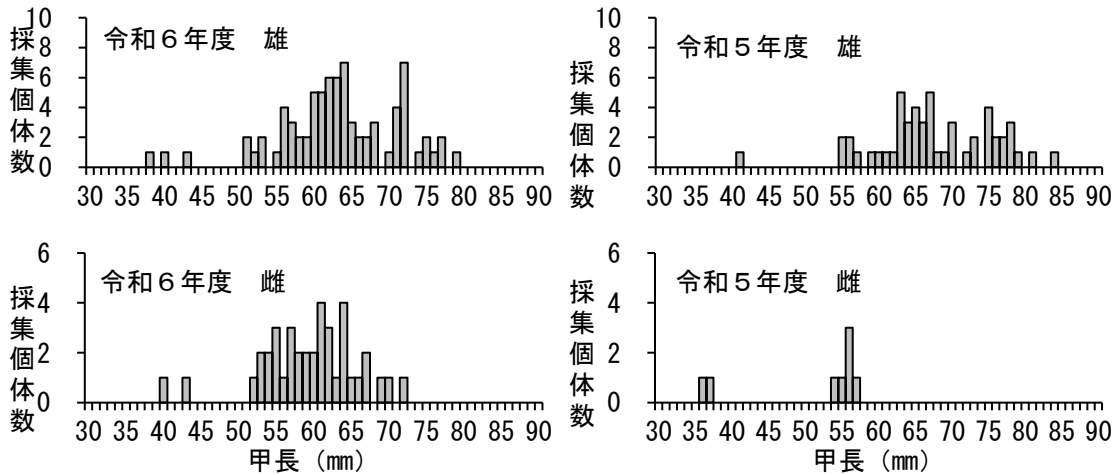


図4 漁期前調査で採捕されたケガニの甲長組成

雄の甲長階級（50mm台、60mm台、70mm台、80mm台以上）別の100カゴあたりの平均採捕尾数は、50～70mm以上の甲長階級で前年を上回り、80mm以上では下回りました（図5）。

（令和6年 CPUE 甲長50mm台：18.9、60mm台：43.3、70mm台：21.1、80mm台：0.0）

（令和5年 CPUE 甲長50mm台：3.3、60mm台：13.9、70mm台：10.0、80mm台：1.1）

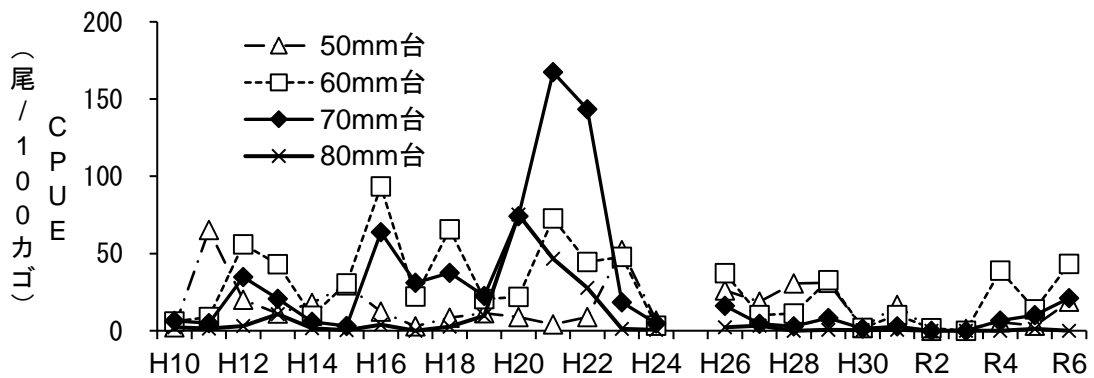


図5 雄の甲長階級別平均採捕尾数（尾/100カゴ）

2) 秋季着底トロール調査(漁業指導調査船「岩手丸」による)

10～11月に岩手県中南部海域の水深200m、250m、300m帯で実施した秋季着底トロール調査（350m帯は未実施）では、雄63尾、雌27尾（前年：雄119尾、雌78尾）のケガニが採捕されました。掃海面積当たりの密度から算出された本県中南部海域に

におけるケガニの推定現存個体数は、平成 25～27 年は低水準で推移し、平成 28 年から徐々に増加傾向でしたが、令和 6 年は前年度から減少し、令和 3 年度と同程度の水準となりました（図 6）。

秋季トロール調査で採捕されたケガニ雄の平均甲長を水深帯別で比較すると、200m 帯では 77mm（前年 65mm）、250m 帯では 85mm（同 86mm）、300m 帯では 98mm（同 91mm）と、前年と同様に深所ほど大型の傾向が見られ、全体的に前年より甲長は大型傾向でした（図 7）。

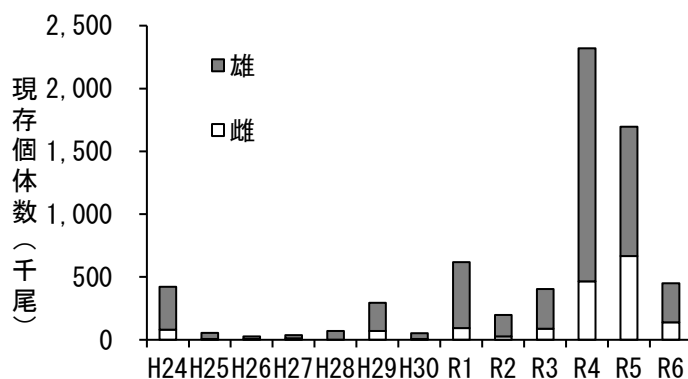


図 6 岩手県中南部海域における秋季のケガニの推定現存個体数の推移

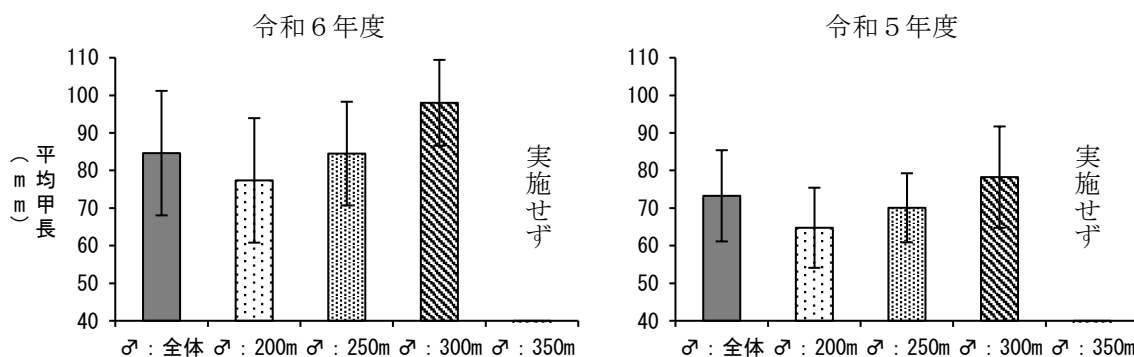


図 7 岩手県中南部海域における深度帯別のケガニ雄の平均甲長

4 令和6年度漁況予測

前年度と同様に以下の予測式により、カゴ（県中～南部）と刺網（県北部）の漁期中の漁獲量を予測しました。

【R6 予測式】

- 漁期中漁獲量** ～ **本県前年の漁期中カゴ又は刺網漁獲量**
 + **7 年前の北海道かご漁業の漁獲量又は漁獲可能量^{※1}**
 + **漁期前調査の 160m 又は 170m 水温^{※2}**
 + **定数**

【予測に用いた指標の説明】

※1 北海道日高地域におけるカゴ漁業の漁獲量

(北海道中央水産試験場 2024年度資源評価報告書 ケガニ日高海域 から算出)

※2 11月に本県中南部海域で漁期前調査を実施した水深160m又は170mの水温

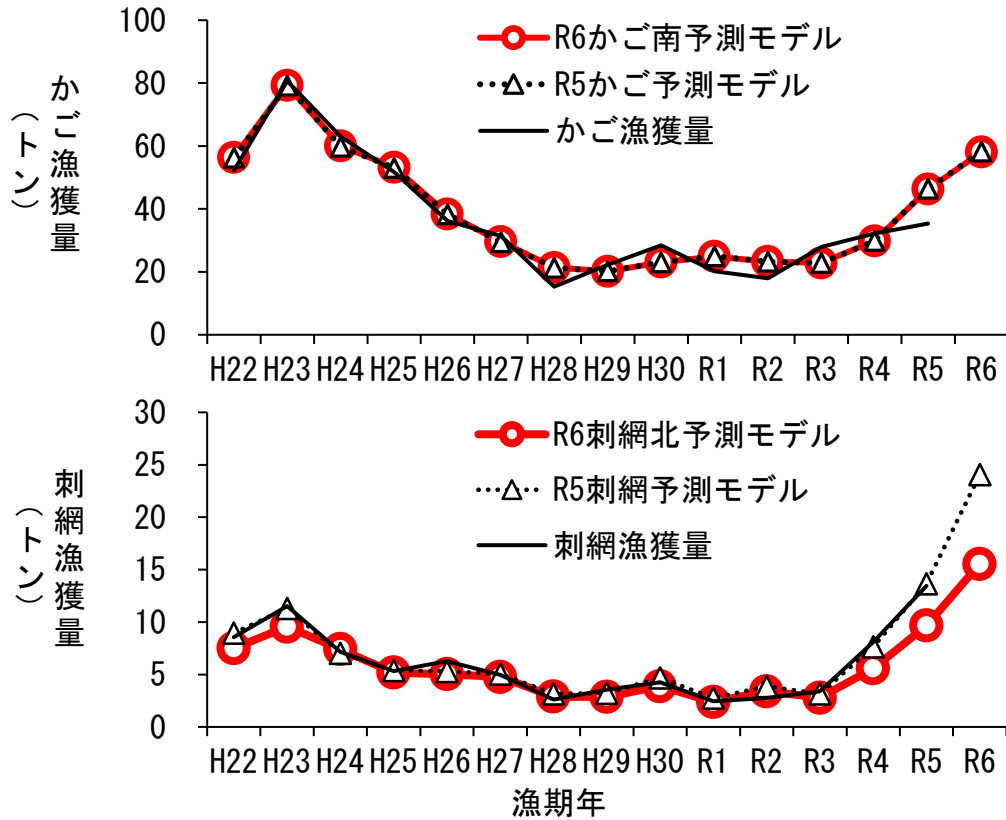


図8 漁況予測モデルにより推定した漁期中漁獲量

実線が実績値、破線が予測値を表しており、令和6年度の予測式は○、前年度の予測式は△で示す。

令和6年の予測値は、直近3年の平均水揚げ隻数から漁獲量を予測。

この予測式により、今年度の本県の漁期中漁獲量は、県中北部を中心に前年並～前年を上回ると予測されました（図8）。

5 まとめ

漁期前調査における漁獲対象サイズの雄ガニの採捕尾数 (CPUE) は前年を上回りましたが、全ての個体が甲長 80mm 以下でした。秋季着底トロール調査では雄ガニの現存個体数は前年を下回り、漁獲対象サイズ (80mm 以上) の雄は主に 250~300m 以深に分布していましたが、平均甲長は前年を上回りました。

以上のことから、漁獲対象となる雄ガニは主に漁場水深より深所に分布しており、加えて、水産研究・教育機構の FRA-ROMS II による予測では、1月中の漁場水温は平年より高水温傾

向で推移するとみられることから、今漁期の主漁期は漁期後半の3月となり、漁獲量は県中北部を中心に「前年を上回る」予測となります。ただし、水温がそのまま高めで推移した場合は、県南部を中心に主漁期の遅れや漁獲量が低調に推移する可能性が考えられます。

担 当：漁業資源部 森 T E L：0193-26-7915 F A X：0193-26-7920 E-mail：t.mori@pref.iwate.jp
--